

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年前期	1	2	選択
担当教員			
都築 博子			
添付ファイル			

講義概要	<p>本講義では、「国際関係論とは何か？」受講しながら学際的な課題を、各自で探求し、解決策を導き出す手段を見出すことを目的とする。また、国際関係論の基礎知識から進化させ、グローバルな視野と国際社会に通用する常識の一部を習得する。</p> <p>「人の移動」や情報交換が安易になった現代社会では、政府だけでなく、民間レベルの関係が深まり、交流が盛んになっている。一方で、ますます、単一国家間だけでは解決できない、さまざまな問題課題が山積している。「われわれ」は、どのように課題を解決すればよいのだろうか。まずは、学際的な国際関係論の領域について、理解する。国際関係論の基礎を学び、国際組織の代表である国際連合が成立した過程を理解する。また、島国日本国民の視点から、日本国をとりまく国際関係の学び方（方法論）を把握するために、一例として、「同盟国」である米国との関係を概観する。アクティブラーニング（AL）の本講義から、個人だけでなく、グループワークを通して、本大学における独自の国際関係論を編みだしたい。SDGsに受講生が貢献できるように、自力で「生きる力」や学び続ける力を持つ人材を育成する。</p>
授業計画	<p>1 講義の概要と位置づけ — 国際関係論を学ぶ意義：課題、達成目標、評価、授業計画など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際関係論を本学で学ぶ意義</li> <li>講座の概要と位置づけをするためにAL④を行う。</li> <li>準備学習：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際関係論の基礎知識を知るために、小・中学生レベルの社会もしくは高校時代に使用した地理・歴史・現代社会・政治経済など社会系の教科書・参考書・地図などで国際関係に関する基礎用語を答えられるようにしておくこと。</li> <li>2) 新聞、インターネットなどのメディアなどを利用して、自分の関心のある国際関係の記事を見つけて、提出シートを作成するように準備をすること（第2回から第15回目共通準備学習）</li> </ol> </li> <li>課題：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本講義を受講する意義を自ら見いだすことができるか。</li> <li>2) 遠隔授業を受講するために、計画的に、課題を最後まで提出することができるのか。</li> <li>3) モチベーションを最後まで保つことができるのか自問自答すること。</li> </ol> </li> </ul> <p>2 国際関係論の領域と基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義を受講する意義の再確認</li> <li>・学際的国際関係論の研究領域             <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 「国際関係論」とは？ 2, 国際関係論の始まり 3, 学ぶ目的と意義 4, 研究分野と観点</li> </ol> </li> <li>・本学で学ぶ国際関係論とは？</li> <li>・国際関係論の基礎             <ol style="list-style-type: none"> <li>1, アクター、2, 国際社会と国際法</li> </ol> </li> </ul> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第1回の講義を振り返り、本当に本講座を最後まで受講できるのか、再確認すること。</li> <li>2) 話題（時事ネタ）シートを印刷するなどして、手書きで提出できるようにすること。</li> <li>3) 本学の建学の精神や自分が所属する学部学科のディプロマシーを把握するために、本学のパンフレットやシラバスなどを熟読しておく。</li> </ol> <p>課題：         <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学で学ぶ国際関係論の領域や観点を理解することができる。</li> <li>2) 国際関係論を学ぶ基礎の用語を理解する。</li> <li>3) 受講希望生は、第2回目から出席確認課題テストを必ず期日までに提出すること。</li> <li>4) 時事ネタ（話題ネタ）シートは、期日までに提出できるように、受講回ごとの日付の関心事項を手書きで記述できるように準備をすること。</li> </ol> </p> <p>3 国際連合と社会に通用する自己視点発見シートの作成と国際関係論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合             <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 国際連合の成立、目的、主要機関、システム</li> <li>2, 日本と国際連合</li> <li>3, 社会に通用する自己視点発見シートの作成と国際関係論</li> </ol> </li> </ul> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際連合広報センターのHPから、基礎用語や国際連合の概要を把握する。</li> <li>2) 日本にある国際連合の諸機関の役割と名称を理解する。</li> <li>3) 自己分析しながらこれまで自分がどのように国際社会にかかわってきたのかふりかえりながら関心のあるテーマを見つけるために、メディアなどを駆使して説明できるようにすること。</li> </ol> <p>課題：         <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際連合の設立過程と目的、主要機関、システムの基礎知識の修得する。</li> <li>2) 日本と国際連合との関わりについて把握する。</li> <li>3) 自己分析しながら自分自身で国際関係論の視点や課題を発見する。</li> <li>4) 身近な出来事が国際関係論とどうかかわるのか考察する。</li> </ol> </p> <p>重要：個別の国際関係論自己視点発見シートの提出。</p>

4	<p>国際社会の諸問題とSDGs</p> <p>1, 言語人口と宗教 2, 宗教 3, 人種と民族 4, 地球環境問題 5, 地球環境問題への国際的取組6, 問題解決の日本の取組 7, SDGs</p> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 国際連合のHPから、どのような問題や課題があるのか把握する。</p> <p>2) 「SDGs」について説明できるようにする。</p> <p>3) 高校レベルの「現代社会」等で国際社会における諸問題の基礎用語を説明できるようにする。</p> <p>課題: 1) 国際社会の諸問題と課題解決するための基礎用語を理解する。</p> <p>2) SDGsの概要が説明できるようにする。</p>
5	<p>SDGs</p> <p>・SDGsとは?</p> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 国際連合、外務省のホームページなどでSDGsの実践活動を調査する。</p> <p>課題: 1) SDGsの目的と視点を理解して、自分の視野を広げる。</p> <p>2) SDGsを意識して、自分なりにアクションできる例を考える。</p> <p>3) 第6回のグループワークが円滑にできるように、グループメンバー(1人から5人)を選んでおく。</p>
6	<p>「われわれ」の国際関係論(1)</p> <p>・SDGsの個々の問題関心</p> <p>・SDGsの個々の問題関心とグループとしての関心との関連付け SDGs</p> <p>sのテーマで個々の問題関心でAL④をグループワークでAL⑤、AL⑥を行う。準備学習:</p> <p>1) 国際連合や日本国の外務省などのHPでグループワークの準備する。</p> <p>2) 個人のレポート作成のテーマとなる関心事項を調べる。</p> <p>グループのメンバーに説明できるようにする。</p> <p>課題: 1) ODAと地球規模の課題</p> <p>2) 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」</p> <p>3) SDGs</p> <p>4) 最優先課題と解決策とその理由</p> <p>以上4課題などをグループワークで学習したことをまとめて、説明する。</p> <p>重要: グループ単位(個人)の課題用紙の提出</p>
7	<p>日本をとりまく国際関係(1)</p> <p>日本の外交の基礎 AL</p> <p>④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 日本国外務省のHPから基礎的な用語を調べる。</p> <p>2) 日本の政治形態や日本と外国との関係で起こっている問題について把握する。</p> <p>課題: 1) 日本の外交を担っている基礎知識を修得する。</p> <p>2) 日本と外国との間でどのような問題が起こっているのか理解する。</p>
8	<p>日本をとりまく国際関係(2)</p> <p>・アメリカ合衆国の基礎</p> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 日本国の外務省やアメリカ合衆国大使館のHPからアメリカの政治、経済、文化の基礎用語を学習する。</p> <p>課題: 1) アメリカ合衆国の概説が説明することができる基礎用語を修得する。</p> <p>2) これまでの講義の範囲の基礎用語や講義の意図が理解している。</p>
9	<p>「われわれ」の国際関係論(2)</p> <p>・SDGsが達成するために「われわれ」ができること。</p> <p>・万国博覧会とSDGs</p> <p>グループワークによってAL④、AL⑤AL⑥を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 個々でSDGsに関するテーマを見つけたことを、グループで議論して、課題解決を一つ以上調査する。</p> <p>課題: 1) SDGsについてグループで話し合い、課題の解決方法を議論し、まとめる。</p> <p>2) 第12回に個別で提出する評価対象課題レポートのテーマを発見するか決定する。</p> <p>重要: グループ単位(個人)で課題用紙の提出</p>
10	<p>日本をとりまく国際関係(3)</p> <p>・日米関係の総論、日米安全保障関係、日米経済関係</p> <p>・日米関係の一例</p> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 外務省や米国大使館のHPを検索して、日米関係について調べる。</p> <p>2) 日米関係において重要な人物や出来事について調査する。</p> <p>課題: 1) 日米関係についての基礎知識を修得する。</p> <p>2) 日米関係においての一視点を理解する。</p>
11	<p>日本をとりまく国際関係(4)</p> <p>・日米関係とインド太平洋</p> <p>AL④を行う。</p> <p>準備学習:</p> <p>1) 外務省で日本の外交政策について調べる。</p> <p>2) インド太平洋地域と日本との関係について考察する。</p> <p>課題: 1) 日本の外交には、どのような分野があるのか説明できる。</p> <p>2) インド太平洋地域において日本の外交はどのように展開しているのか解説できる。</p>

	<p>12 「われわれ」の国際関係論（3）  ・SISTの国際関係論  AL④、AL⑤、AL⑥を行う。  準備学習：  1）これまで講義から自分のテーマを見つけ出し、個々にレポートを作成する。  2）個別で作成した課題レポートを作成できるようになるまで、熟考すること。  課題：1）個別の課題レポート（個人（一人）で作成したレポート）を提出する。  重要：1）個別（一人で作成した）のレポートの必着提出（第15回までに必ず評価希望の受講生は提出すること）。  2）指定のFormsなどのサイトに、個別で提出した評価対象課題レポートのテーマ名を必ず登録すること。</p> <p>13 「われわれ」の国際関係論（4）  ・SISTの国際関係論  ・「われわれ」の個別テーマ投票  AL④、AL⑤、AL⑥を行う。  準備学習：  1）第12回の講義で学習したことを復習する。  課題：1）本年度のSIST学生が作成したレポートのテーマから本年度の国際関係論の傾向を把握する。  2）発表者の内容を要約し、コメントする。  3）プレゼンテーションで学習し、コメントして、更に自分の知識として修得し、身近な関心事を国際関係と関連させることができる。  重要：1）第12回目に受講生が提出した評価対象課題レポートの中から関心あるテーマに投票する。</p> <p>14 「われわれ」の国際関係論（5）  ・SIST学生によるSDGs達成の可能性を探る。  ・個人のテーマとSDGsとの関係  SISTのまとめで、グループワークの3回目となるので、AL④、AL⑤、AL⑥を行う。 SDG  準備学習： 1）個々のレポートのテーマと内容をグループのみんなに分かりやすく説明できるようにする。  2）個別のレポート内容がSDGsとの関連を的確に言えるようにする。  3）SDGsの考察やレポートを作成する時に利用した参考文献やHPを整理する。  4）グループワークで話題にしたい、もしくは課題を解決する内容が提供できるように調査する。  課題：1）SDGsを具体的に説明することができる。  2）個人の課題レポートのテーマと内容がSDGsとどう関連するのか文章で伝えることができる。  3）これまで使用した資料などが第一次資料か第二次資料か分類することができ、指定の用紙に記入することができる。  4）これまで国際関係論で修得したことを文章表現で的確に示すことができる。  重要：グループ単位で課題用紙の提出をする。（任意：グループ単位（個別ではなくグループのメンバー全員）で課題レポートを作成して提出することも可能。加点対象）</p> <p>15 SIST学生のための国際関係論の総論  ・講義全体の総括  ・「われわれ」の描く国際関係世界と未来への展望  AL③とAL④を行う。  準備学習：  1）これまでの講義ノートなどで復習して、用語を確認して、説明できるようにすること。  2）定期試験の準備をすること。  課題：1）個々で作成したレポートのテーマと内容、問題関心や課題などを文章表現できるようにする。  2）講義ノートにでてきた用語を解説できるようにする。  3）SDGsとSDGsが個々の課題レポートとどのように関連するのか文書表現できるようにする。  重要：全ての評価対象の課題提出用紙類を各自で確認して、全部完成する。期日までに、指示通りに提出する準備を万端にする。</p> <p>16 定期試験  最終課題提出日（時間制限内に解くこと）：論述テスト2問、一問一答テスト30問、全評価課題提出物必着締切日</p>
授業形態	遠隔授業での講義ノートを用いた講義、各回個別出席確認課題テストの提出、評価対象として、個別視点発見シートの作成・提出、個別の時事ネタ（話題提供）シートの作成・提出、個別の課題レポートの作成・提出 グループ（個人のみも可）ワークで課題シートの作成・提出 アクティブラーニング：①：0回、②：0回、③：1回、④：14回、⑤：3回、⑥：3回

達成目標	<p>1 日本をとりまく国際関係の基礎知識を修得する。(基礎)</p> <p>2 SDGsを理解して、各自もしくはグループの関心テーマを把握し、SDGsと関連づけることができる。(標準)</p> <p>3 身近な出来事や国際に関する話題や時事に興味を持ち、グローバルな視点で国際社会(地域・社会)での課題を解決しようとする意志を持つことができる。(標準)</p> <p>4 日本国内を含め国際社会貢献できる活動や行動する資質を持つ。受講後も国際関係論で学んだことを適宜応用しながらを自ら学び続け、主体的に行動できるようになる。未来への明確なビジョンを描くことができる。(応用)</p> <p>5 社会の身近な出来事を自分事として捉えて、身近な問題や課題を解決しようとする。もしくは、解決するために学びつづける心構えができる。(応用)</p>
評価方法・フィードバック	<p>1、個人AL度10% 出席確認課題テストで59点以下は、欠席もしくは評価対象外。自己視点発見シート、時事ネタ(話題提供)シート、出席確認課題テスト、質疑や回答の内容など、2、個別レポート作成関係、9%、※レポートの形式が、規定(指示)通りにできていないと、減点もしくは評価対象外。※「コピー」、「盗作」、「剽窃」、など、違反行為と判明したレポートも、評価対象外。3、個別定期試験(一問一答30問、論述2問)60%ただし、100点(%)中、59点(%)以下は、評価対象外。4、グループワーク(個人のみでも可)21%(3回分、各回7%) ※グループワークは、グループ単位で評価。総授業回数2/3以上の出席により単位取得の評価対象。以上を総合的に評価する。個別やグループワークの課題シートなど、総合的に評価判断する際に、影響を及ぼさない限り、採点后返却し、フィードバックする。課題レポートの評価の高いレポートや、テーマや、時事ネタなど、今年度の「われわれ」の国際関係論の内容の一部を、次年度の学生にも、フィードバックする。</p>
評価基準	<p>秀(1~5):90点以上、優(1~5):80点以上、良(1~5の内3項目):79~70点、可(1~5の内2項目):69~60点、不可:59点以下、但し、秀は、受講生の上位10%以内ただし、かつこ()内は、達成目標の項目を示す。</p>
教科書・参考書	<p>教科書は指定しない。講師が作成した講義ノートや資料を配付する。参考書や参考HPは、適宜、講義中に紹介する。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな視点で、身近な出来事や国際社会の出来事に、関心を持っている。</li> <li>・人と交流することを好み、自主的に学ぶ姿勢がある。</li> <li>・自ら課題を発見し、解決しようという志がある。</li> <li>・今後、社会貢献活動してみたい意志がある。</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的に学ぶ。受け身の姿勢で授業に参加しない。</li> <li>・時事問題や現代社会に関心を示すこと。</li> <li>・グループワークの課題に、積極的に取り組むこと。</li> <li>・遠隔授業を各回最後まで聴講しないで、質問するのは、厳禁。</li> <li>・基本的に質疑に対して、即答はできない。オンライン中なら即答できるが、真夜中や締切間際などを避けて、平日の日中など常識の範囲内の時間帯に質問するように心がけること。1週間以上も返答がない場合は、再度、質問すること。</li> <li>・国際関係論の受講内容以外の事務的質疑やPCトラブルなど、国際関係論の講義内容以外の質疑事項は、問題解決策として、大学の該当する部署へ問い合わせる事。(評価の減点対象となる場合あり)</li> <li>・受講中にさまざまな問題がでてきたら、まずは、自責でとらえて、解決策を自ら見つけ出すこと。(なんら自ら解決策を提示しないで、一方的に、責めたり、質疑してきた場合は、評価の減点対象の場合あり。)</li> <li>・質問の内容や方法の仕方も評価対象となるので、よく考察・熟読してから、相手の立場になって、質問すること。口頭でも文章でも同様である。</li> <li>・グループワーク(個人のみも可)は、一度確定したら、基本的にメンバーの途中の変更ができない。</li> <li>・評価対象の提出用紙類は、個別のレポート以外は、基本的に手書きで、指定用紙に記入した原本を提出すること。各回の出席確認課題テストは、Formsで提出する。</li> <li>・個人の出席欠席が付くのは、かなりの時間を要する。各回の3回後ぐらいであることを予め了承しておくこと。</li> <li>・最終的な評価対象者は、第13回目ぐらいで発表する。基本的に確認作業期日までに提出していれば、最終試験を受験する資格を有することができる。</li> <li>・評価対象者は、出席(出席確認課題テストの提出)が10回以上である。例外はありません。</li> <li>・学生個人の各回の出欠や各回の評価対象の成績の調査に、個別対応していません。各回提出したかどうかは、各自の自己責任でお願いします。ただし、出席や提出物確認は、まとめて、公平に受講生全員一斉に行います。誰かを優遇することをしていません。平等に接します。質疑応答可能時間帯なら質疑応答対応できる場合もあります。また、不測の事態の場合は、臨機応変に対応します。</li> </ul>
準備学習と課題の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画中に記載されている「準備学習」の内容(1.5時間)を必ず行うこと。</li> <li>・授業計画中に記載されている「課題」の内容(1.5時間)を必ず行うこと。</li> <li>・重要と記載されている課題は、必ず提出するか、必ず実行すること。</li> <li>・提出用紙は、事前に配布することが多いので、大学からのメールやTeamsのファイルなどをチェックすること。各自で印刷すること。</li> <li>・時事ネタや話題の情報源や史料を提供する場合は、提出物に学籍番号、名前、日付、出典名、を明記すること。加点を希望するのなら、どのようにすればよいのか考えて作成し、提出する。</li> <li>・授業中に配布した講義ノートや、資料や、自分で収集した資料等をファイルなどで整理しながら保管する。</li> <li>・計画的に自主学習できるように、日々鍛錬をすること。</li> <li>・個別で作成する課題レポートは、早い段階からテーマを決定し、取り掛かること。</li> </ul> <p>※個人作成のレポートに関して、講師に相談やアドバイスを受けることが、望ましい。</p>
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	<p>知識・理解:10%, 思考・判断:15%, 関心・意欲:25%, 態度:25%, 技能・表現:25%</p>
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	